



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry : 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

広島事務所 5 月に移転します

本年 5 月 1 日より当機構の広島事務所が移転します。移転場所は中区袋町 4 丁目の広島 CLC (キリスト教書籍販売) 建物の 2 階です。同所は以前広島事務所であったところですが、今回は 2 階全フロアを使うことになりました。市内の中心部で利便性もあり、今後「世界食料デー委員会」をはじめ学生や支援者グループの会合や集会にも活用いただけます。どうぞご利用ください。

新住所 (5 月 1 日より)

広島市中区袋町 4-8 CLC 2F

※電話とファクシミリ番号も変更、決まり次第お知らせします。

使わない本は愛知事務所へ「本 de リンク」を活用ください

愛知事務所では、使わなくなった本や CD やゲームソフトなどを集めています。届けられた本は、愛知事務所で買取店や専門店で換金し、飢餓と貧困に苦しんでおられる方々のために用いさせて頂いています。

●本 de リンク 1 ~ 2 月報告

本 464 冊、CD115 枚、DVD10 枚
ゲームソフト 31 本
換金額 : 24,340 円

夏の海外ワークキャンプを実施

今年 8 月中旬に、アフリカのウガンダとアジアのマレーシアにおいてワークキャンプを開催します。開発途上国における極度の貧困による様々な問題を学ぶとともに、また当機構の活動現場でボランティアワークをします。詳しい日程と参加費はウェブサイトや次号の紙面でお知らせいたします。

ハンガーゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ チャイルド・サポーター (世界里親会) になりたいので説明書 (申込書) を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ JIFH (日本国際飢餓対策機構) サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 500 円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名 : _____ 男・女

〒 _____
フリガナ
住所 : _____

(電話) _____

▼申込日 : _____ 年 月 日▼

FAX・072-920-2155

フルート演奏家
ソン・ソルナム氏
親善大使に

当機構の新たな親善大使に韓国のフルート第一人者として活躍されているソン・ソルナム氏が任命されました。ソルナム氏は、現在 NHK で放映中の韓国ドラマ「イ・サン」の挿入歌をはじめ、多数の韓流ドラマを担当されています。様々なフルートを使い分け、繊細で美しく透明感のある演奏には定評があり、昨年の「世界食料デー大会」(八尾と奈良)で



も来会者から絶賛されました。また東日本大震災直後、多くの外国人が原発事故後に国外脱出する中で来日し、避難所やその後の仮設住宅を回って 60 回もの慰問コンサートも続けられています。そのような方が上原令子さん、森祐理さんとともに親善大使として、東日本や世界の飢餓問題のための応援をしてくださいます。ぜひ、ご期待ください。

ハンガーゼロ・サポーター 1996 年。さらに運動をひろげていきましょー！



日本国際飢餓対策機構

2012 No.261

4

飢餓対策 News



給食を嬉しそうに食べるケニア・シーブケア学校の子どもたち (2 頁に記事)

「高騰が続く穀物価格、増え続ける飢餓人口、国として体をなさなくなった破綻国家の増加という三つの傾向に注目している。地球の再生力をはるかに上回るペースで天然資源を消費する上に成り立ってきた現代の文明が、崩壊に向かい始めていることを示している」米国の環境思想家のレスター・ブラウン氏は 3・11 後の世界について尋ねられてこう答えています。さらにブラウン氏は、食料、水、気候変動、穀物価格などが世界の人々の安全を左右する問題と

3・11以降多くの国のリーダーが、再生可能なエネルギー、持続可能な社会を真剣に考え始めています。経済成長こそが国の正しい発展であるという神話が崩れ、本当に必要なものは何か、命を守っていくものは何なのかは今改めて問われています。

先日フィリピンから戻ってきた一人の大学生が私に「幸せとは一体何か、また他者のために生きるとは何かを本当に考えさせられた」と熱っぽく語ってくれました。つまり家族がひとつ屋根に暮らし、生きていく糧を得、支え合っていくコミュニティ仲間があれば物質的な豊かさがない

も、人は幸せに暮らすことができるんだと分った、また自分さえよければという自己中心的な生活が、どれほどみじめなものであるかということに気づかされたと言います。

豊かさとは、何かを「持っている」ではなく、持っているものを「分かち合っていく」心や行動だと考えます。冒頭のブラウン氏の「現代の文明が崩壊に向かい始めている」とは非常にショッキングな言葉ですが、地球全体が危機的な状況になりつつある今だからこそ、このことが真剣に考えられ、また皆で共有していくことができるのではないのでしょうか。

軍事的手段ではなく、水や食料が人間の安全保障となることは日本国際飢餓対策機構の活動が始まって以来ずっと叫び続けてきたことです。ハンガーゼロ、飢餓のない世界が本当の平和を生み出します。これからも飢餓のない世界実現に向かって活動を続けて参ります。

「飢えた者に心を配り、悩む者の願いを満足させるなら、あなたの光は闇の中に輝き上りあなたの暗闇は、真昼のようになる」(イザヤ 58:10)

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

Web サイトアドレス <http://www.jifh.org/>
e メールアドレス general@jifh.org

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

身近に
便利に
なりました



●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
広島 〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号
TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961
沖縄 〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号
TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540
東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2 階 E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力を下さっています。

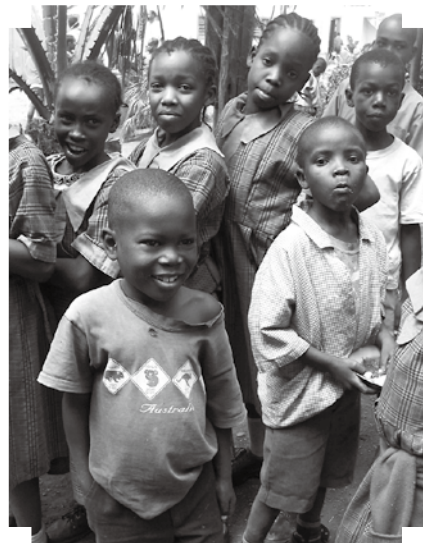
1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

東アフリカ、ケニアの首都ナイロビの外れにあるスラム街にシープケア学校があります。この学校の創設者で牧師のルーク氏は、幼い時に父親を亡くし、母親に育てられました。教育の大切さを知っていた母親は、貧しくてもルーク氏を学校に通わせました。子どものころ勉学に励むことができた経験からルーク氏は、このスラム街の子どもたちに、学ぶ機会を提供したい、成長した子どもたちにこの地域を変えて貰いたいと願って、全く何もない状態から同じ思いの方々を募り学校を始めたのです。

ルーク牧師の子どもたちへの祈りと期待

やがてこの地域を変える人になってね…

今年2月、私たちは毎朝、舗装されていないでこぼこ道を車に揺られながら学校まで行きました。一步敷地内に入ると満面に輝く笑顔の子どもたちが元気な挨拶とともに出迎えてくれました。ここでは、幼稚園から高校までの400人程の生徒が同じ敷地内で勉強しています。一見、元気いっぱいであるく、楽しそうにしている子どもたちですが、着ている服はボロボロ、年齢の割に小柄です。電気もない薄暗く狭い教室で、日本のよ



明るい子どもにもそれぞれ様々な背景がある



極度の貧困家庭の子と私たちハンガーゼロTシャツをプレゼント

うに一人ずつ教科書が与えられるわけでもなく、小さいノートのみで授業を受けていました。

自分の居場所を求めて

学校に行き始めた時期が子どもによってバラバラな為、同じ学年のクラスでも5歳くらいの年齢差があります。ケニアでは子どもの身分は低く、特に女の子に対しては、教育を受けさせるのも無駄だと考える親もいます。家庭環境に恵まれず、家に居場所がない子どもたちの中には朝早くに登校し、授業が終わっても夜の8時くらいまで学



エリックさんとルーシーは子どもから大人気

校に残る子もいます。

ある女の子は私が滞在した17日間で、一度も登校することがありませんでした。担任の先生によると「彼女のお父さんはお酒飲みで、彼女が学校に行くのを妨げている」とのことでした。

今年の夏からJIFH世界里親会の里子支援がこの学校で始まりですが、以前ストリートチルドレンだったり、親から虐待を受けていたこの学校出身の若い二人が、新たに里子支援のスタッフとして起用されました。この二人、エリックとルーシーは、ルーク氏が自ら学費を支援して学校に通わせたそうです。二人ともとても熱心で、子どもからも慕われています。

困難な境遇の中にいる子どもたちが学校で学び、子どもたちとこの地域の人々が希望を持って生きていけるように日本国際飢餓対策機構では里親さんを募集しています。どうかケニアの子どもたちをご支援ください。

(報告：東北事務局 成川祐香)

●シープケア学校の子どもたちの支援開始は7月を予定してます。お問い合わせは、大阪事務所・世界里親会まで



ダイエットのためだけでなく、生活習慣病対策として「断食」に関心をよせる人が増えているといわれています。そんな中、当機構の支援者であるAFC 愛知断食センターでは、断食コース体験者に対して飢餓問題への啓発をはじめてくださっています。

ハンガー・ゼロの取り組みを応援して下さっている、愛知県豊田市にある「愛知断食センター」の安田代表理事にインタビューをさせていただきました。

Q愛知断食センター（AFC）とは、どのような場所なのでしょう？

ここは、1995年から2005年まではクリスチャンを対象にする断食祈禱院として使用されていました。しかしクリスチャンの来会の減少と共に徐々に一般の方も受け入れ始めるようになり、また妻の子宮癌が断食と食養で癒されたのをきっかけに、2005年から祈禱院を併設した断食センターをはじめました。今では約9割が一般の方々です。とは言うものの、当初はキリスト教の断食祈禱院としてスタートしましたので、朝の礼拝は今も継続して行っています。当センターではみなさんに体と心と霊の健康回復を体験して頂きたい

と思っています。

Qどのような方が、どのような目的で集われているのですか？

主に若い女性が美容と健康を求めて来られています。もちろん県外からも女優さんやモデルさんなど、多くの方が訪れています。

誰かのためと思えば継続できる

Qハンガーゼロ・サポーターになって下さったきっかけは？

JIFHのホームページより、世界には1日に2万5千人の方が飢餓が原因で亡くなっているという事を知りました。先進国に生まれた私たち日本人は食べ物に執着をし過ぎていると思います。食べ過ぎている私たちがもっと少食にして、その残りの分のお金を困っている人たちに渡す事ができたら彼らの助けになるだけでなく、また私たちの健康も回復すると思います。しかしただ断食するだけではすぐに誘惑に負けてしまいますが、「誰かのために」という思い



毎朝に行われる集会はいわば心の健康回復、それは当機構が啓発している心とからだの二つの飢餓対策とも通じるものです。

で行えば継続できるのではないかと思います。ですから、AFCでは参加費の一部をハンガーゼロ・アフリカのために献金させて頂き、参加者全体でハンガーゼロ・サポーターになっています。

Q最後に、今後の取り組みについて教えて下さい。

毎日の集会の中で、参加者のみなさんに世界の飢餓の現状と私たちの生活は無関係でないという事をこれからも伝えていきたいと思っています。準備中のパンフレットにも日本国際飢餓対策機構の事を入れさせていただきます。



写真④に安田代表理事

●断食体験に関心のある方は、AFCのサイトへアクセスしてみてください <http://www.npo-comecome.com/afc/>



皆さんが「あの日」と向き合える日のために いま私たちが一緒にできること

東仙台教会（日本キリスト改革派）は、日本国際飢餓対策機構の支援を受けながら、東松島市の野蒜、東名地域で、支援活動を行っています。その中の二つの活動を心からの感謝をもって報告させていただきます。

①仮設住宅の入居者との交流

東仙台教会では「ひびき工業団地仮設住宅4号棟(17家族)」、「内響地区仮設住宅(26家族)」、「ひびき工業団地第一公園仮設住宅(8家族)」に住んでおられる方々に月に一度ささやかな支援物資と手紙を届け、交流を深めています。また、近くにある「川下地区センター」という集会所で、月に2～3回、「おはなカフェ」という集

いを行っています。最初に訪問した時にはほとんど話をされなかった方々も、今では、「こんど、うちさおちゃんにきさい（今度うちにお茶を飲みに来なさい）」とか「でてきたらいつちゃ～（遊びにおいで）」と言ってくるようになりました。

1月に行った「餅つき大会」では、約40名の地域の方々が参加してくださり、私たちが上手に餅をつけないのを見たお父さんたちが「みてられん」と言って手伝ってくれました。また、ついたお餅を切ったり、あんこやきな粉をつけたりする作業もお母さんたちが手伝ってくれました。集まった方々と「一緒に何かをやる」という時間は本当に楽しい時間です。

②子どもたちに対する学習支援

新東名三丁目に借りた家を「サクラハウス」と命名し、その家で、毎週、月・水・金曜日に「に

じいる楽習会」という学習支援の活動をしています。現在は39名の申し込みがあり、毎回30人前後の子どもたちが遊びに来て、5、6人の保護者の方々もゆっくり時間を過ごしに来てくださっています。

学校から帰ってきて最初の30分間は勉強の時間です。それぞれの宿題をやったり、大人（ボランティアの方や、手伝いに来てくださっている地域の方々）と一対一で音読（国語の教科書を読む）をしたりします。その中で、私自身は、小学一年生の子に「時計の時間」を教えることの難しさを知ったり、図形の面積を求める公式を子どもたちから教えてもらったりしています。

勉強が終わってから親が迎えに来るまでは遊びの時間です。最近では「逃走中（私にはルールがよく分かりません）」、「だるまさんが転んだ（だいたい鬼をさせられます）」、「秘密基地作り（暗号が分からないので入れてくれません）」などをして遊んでいます。

安心できる場所になればと

大切なものをたくさん失くして

しまった子どもたちと、どのように向き合うことができるのか。

「家族や親友たちが一瞬にして死んでしまった」という心の傷を抱えた子どもたちと、どのように向き合えばいいのか。私自身は、いまだに何もわからないまま、ボランティアで来てくださっている方々と一緒にサクラハウスで子

もたちと時間を過ごしています。今はただ、子どもたちが思いっきり走ったり、転んだり、笑ったり、泣いたりできる、そんな安心できる場所を少しでも長く与え続けたいと思っています。いつか、5年後か10年後か、この働きを続けていくなかで、少しずつ成長していく子どもたちと一緒に、あの日の出来事を振り返ることができる時が来ることを願っています。

（東仙台教会 牧師 立石彰）



震災と大津波の後 JIFH は3月14日に現地に入り、明泉幼稚園の施設をベースキャンプとしてお借りしました。17日には米国サマリタンズパースの緊急支援活動代表であるケン・アイザックス氏、BGEAのチャド・ハモンド師が来阪し、JIFHとサマリタンズパースとの具体的な協力が始まりました。泉区紫山の支援物資倉庫でもクラッシュ

ラハム師が来日され、同祭典で、聖書から神様が与えてくださる真の希望について語ってくださいました。

この機会に、グラハム師とサマリタンズパースの協力を覚え、書家の川口

精兵氏による「善隣共生」の書を贈呈させていただきました。善き隣人となって、共に生きる社会を生み出すことはJIFHの目指すところでありモットーです。

また、同じ精神で活動しておられるサマリタンズパースとも、今後も協力しながら共生社会を生み出して行くことをグラハム師と確認し合うことができました。（JIFH理事長 岩橋竜介）

共生社会を生み出すために 善隣共生を推進



ジャパンや他の団体とも協力しながら、被災地復興活動をしてきました。

このたび1年が経過して「東北希望の祭典」が開催され、サマリタンズパースの総裁であるフランクリン・グ

東日本大震災 支援募金のご報告

募金集計
158,171,902 円
(2011年3月～2012年2月末まで)
国内と海外の合計

ボランティア延べ人数
約5,500人
(2011年3月～2012年3月上旬)

災害に苦しむ人々の復興のために、募金とともに様々な物資提供、ボランティアによる活動参加、各種のチャリティー活動による応援を続けてくださり、心から感謝いたします。引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。



3月13日が来るのを願って



行き交う人々に大きな声で言葉をかわす岩佐さん（山元町中山熊野堂仮設で）



をどう生きるかで必死でしたし、いま仮設に入ることはできたけれど、来年の夏から秋には出ていかなければならない。でもそれに対しての展望は今の段階でほとんどの人が全然見

東日本に未曾有の大災害がもたらされて一年を迎えた3月11日、被災地はもとより日本全国、全世界で追悼集会や、今もなお苦しむ人々のために祈りをささげる姿がありました。

被災地での復興支援活動を継続している当機構にとっても、この一年は文字通り激動の一年となり、月日の流れの早さを感じるものとなりました。

しかしそのような外からの私たちの思いと、現地で苦しい立場に置かれている被災者の方々との間には明確な温度差があることを知りました。3月6日、当機構とともに復興支援活動を行っている亙理聖書キリスト教会のボランティアチームとともに、宮城県山元町の仮設住宅（中山熊野堂）を初めて訪れて、「焼きとり」の炊き出しと「食品」の配布を行った時のことです。

元焼きとり店主の熊田さんによる「焼きとり」は、各地の仮設住

宅で喜ばれており、この日も皆さん「美味しいね」と笑顔で喜んでくださいました。その皆さんの笑顔を嬉しそうに見ておられたのは、この仮設住宅で世話役として慕われている岩佐久男さん。少しお話させて頂いた中で次のような言葉がありました。
「もうすぐあの恐ろしかった3月11日を迎えるけれど、この1年は早くも短くもなかったよ。むしろ私たち被災した者にとっては、時は止まったままじゃなかったかな。3月11日が震災の日、そしてこの仮設住宅に入れた今年の夏が、私たち被災者にとって翌日の3月12日です。でも私たちには、3月13日は来ていません。とくに震災直後は、その日その日

えないですよ。ここは高齢者世帯が多いこともあって、先のことは何もわからないね。だからまだ3月13日は来ていません」。

この一年は早かった？長かった？月並みな質問をした者の心に、岩佐さんの言葉が重くのしかかりました。

希望が届くようにと、私たちは支援の手を伸ばし続けてきましたが、いま一度、大きな喪失感の中で時を失って必死に現状と将来に向き合おうとしている方々のことを理解しなければならないと思われました。そしてそのお一人おひとりの時計が少しでも進み出し、希望の3月13日を迎える日が来ることを心から願います。

（広報 鶴浦弘敏）

会嶺岸浩牧師によるメッセージが行われました。さらに特別ゲストとして、被災地で60回の慰問コンサートが続けている韓国のフルート奏者のソン・ソルナム氏の演奏も行われました。

当日は会場が満員となる300名を超える人々が来会し、席上募金として集まった約41万円は、全額が復興支援のために用いられます。



当日は当機構の東北事務局から伊東綾による活動報告、また被災者の声として教会堂が流出した気仙沼第一聖書バプテスト教

大阪クリスチャンセンターとモリユリ・ミュージック・ミニストリーズの主催による「東日本大震災復興支援のつどい」が3月17日、大阪クリスチャンセンターで開催されました。このコンサートは昨年4月に続くもので、当機構親善大使の森祐理さんが歌とともに運営でも関わってくださいました。

森親善大使が復興支援コンサート



小学校で日本の歌を教えました

貧富の格差を肌で感じた目

報告：西南学院大学 宗教主事リディア・ハンキンス（当機構元評議員）

日本の多くの大学で「経験」や「旅行」が注目されています。西南学院大学では、「パリに行く前にフィリピンへ」、また「初めての海外旅行はボランティアを」と訴えています。これまでの11回の海外ボランティア・ワークキャンプのうち6回は、マニラ市の南にあるパリ paran 地区の訪問となりました。日本国際飢餓対策機構がこの地域への支援を終わろうとしていることもあり、この3年は世界里親会の里子の家や教会を建て直したり修理したりする作業をしてきました。

ハンキンス先生

.....
毎回、地域の方々に何が一番必要かを決めてもらっています。今年は、西南学院大学の学



砂と砂利と水を混ぜてセメントをつくる学生たち

生15名、引率者2名とJIFHから2名が、教会の人たちや家の家族と共に、里子の家の修理を行いました。コンクリートを作り（もちろん機械なしで！）ブロックを積み重ねました。常に地域の多くの子どもたちにもお手伝いをしてもらいました。また、小学校を訪問して折り紙や日本の歌を教え、川くだりをしてフィリピンの美しい自然にも触れることもできて充実した11日間でした。

ご飯にコーヒーをかけて...

私は参加した学生に聞きました。「お小遣いをどのように使いますか？」。答えは「ファッション、音楽、映画、旅行」などでした。貧困地域の人は、何をかうかという、まず「お米」です。お米さえあれば、何とかしばらく食べられるからです。おかずの代わりに、朝、ご飯にインスタントコーヒーをかけて食べる家庭もあります。反対に、食べ物の不足もなく、音楽やファッションにはまり、大学に行けることが当たり前のように考える日本の大学生は、自分が置かれているこの世界の貧富の差・政治・経済問題をどうし



ホストファミリー（里子の家）と共に

たら理解できるでしょうか。貧困地に行き、自分の目で見て、臭いをかぎ、手で触れ、住民と話して困難も、希望も、聞くことが大切です。

西南学院の21世紀のテーマは Impacting the World（世界への貢献）です。それを少しでも果たすことができ、JIFHとの協力でパリ paran に行かせていただけたことを感謝しております。

人生を少しでも変えたい！

●学生の声：このワークキャンプはただ行って家を修理して子ども達と触れ合うだけじゃなかった！「あなたは何を信じてるの？」って聞かれて困った。川にゴミを捨てる子ども達をみて、自分の無力さを感じた。貧しく食べ物に困っているからといって、悲しくて泣いている人たちは見なかった。本当に本当に本当に行ってきた。自分が今回行ったことで、フィリピンの貧困が解決するわけじゃないけど、自分のこれからの人生を少しでも変えるきっかけになったと思う！